

令和5年度 パブリックコメント

No.	1.案件名	2.募集期間	3.実施機関	4.意見等の件数	5.第6条第2項の規定による公表事項の公表日
1	第3次障がい者計画・第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画（案）	令和5年12月18日～令和6年1月17日	市民福祉部社会福祉課	意見なし	－
2	第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画（案）	令和5年12月18日～令和6年1月17日	市民福祉部まると福祉課	意見なし	－
3	横手市国民健康保険第3期データヘルス計画及び第4期特定健康診査等実施計画	令和5年12月18日～令和6年1月17日	市民福祉部国保市民課	意見なし	－
4	横手市地域公共交通計画（素案）	令和5年12月21日～令和6年1月19日	総務企画部経営企画課	6件	令和6年2月1日 意見の概要と市の考え方
5	第1次横手市読書活動推進計画（素案）	令和5年12月27日～令和6年1月31日	教育総務部図書館課	3件	令和6年2月14日 意見の概要と市の考え方
6	横手市水道事業計画・経営戦略（改定素案）	令和6年1月22日～令和6年2月20日	上下水道部経営管理課	7件	令和6年3月4日 意見の概要と市の考え方
7	横手市地域防災計画（修正素案）	令和6年1月24日～令和6年2月22日	総務企画部危機対策課	意見なし	－
8	横手市国民保護計画（変更素案）	令和6年1月24日～令和6年2月22日	総務企画部危機対策課	意見なし	－
9	第4期横手市総合雪対策基本計画（素案）	令和6年2月1日～令和6年3月4日	建設部建設課	1件	令和6年3月19日 意見の概要と市の考え方

横手市地域公共交通計画(素案)にお寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

1. 募集期間 令和5年12月21日(木)～令和6年1月19日(金)

2. 提出者 2名、6件

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方
1	4、17、25、28、30、39、44ページ	OpenStreetMapは基本自由に利用することができるが、使用する際にはライセンス表示が必要と思われる。地図の右下などに「© OpenStreetMap contributors」と付記すれば問題ないはずである。	ご指摘のとおり、地図にクレジット表記を追記いたします。
2	27ページ	フリー乗降区間制度の導入は大変良いことだと思うが、循環バスの停留所をもっと増やしてほしい。自宅から最寄りのバス停が幸町なのだが、遠いため暑い時や寒い時に歩いて行くことができないので、追廻まで循環バスが来るようにしてほしい。	循環バスの運行におけるルートの延伸や停留所の新設は、運転時間の増加、運行経費の増大につながるため難しい課題ですが、計画に記載のとおり、ニーズに合ったより利便性の高い交通手段になるよう、運行パターンの見直し等について検討を継続してまいります。なお、停留所が遠い場合には、デマンド交通と組み合わせての利用をご検討いただいております。
3	38ページ	車を持っていない高齢者にとって、横手市でこれからも暮らしていくためには公共交通が必要不可欠なものなので、今よりも快適に利用できるようにする事を心から願っている。	計画に記載のとおり、市民の皆様が日常生活を営む上で支障なく移動手段が確保されているという将来像を目指して、本計画期間中に様々な取り組みや検討を行ってまいります。
4	45ページ(1)(2)	グランマート横手店をよく利用しているのだが、バスゾーンのためデマンド交通が利用できず、大変不便に感じている。デマンド料金でないタクシー代は高額で、日常では利用が難しいので検討していただきたいと強く願う。	バス路線との役割分担を明確化するため、中心部バスゾーン内はデマンドでの乗り入れを不可としており、バスゾーン内の施設を利用する場合には、デマンド交通と循環バスを組み合わせでの利用をご検討いただいております。 乗り換えポイントの運用等につきましては、引き続き事業者と協議してまいります。
5	51ページ	コミュニティバスの運行は良いことだと思うので、今住んでいる地区でも早急に導入を検討していただきたい。近くにあったスーパーが閉店してしまったので、本当に困っている。	市で新たにコミュニティバスを運行することは考えておりませんが、地域の交通に関する困りごと解決のために、地域の皆様が主体となって何らかの取り組みを行う場合にはサポートさせていただきます。

6	55ページ	交通助成券の交付を、75歳以上から70歳以上に引き下げてもよいのではないか。また、運転経歴証明書の取得によりのみ受ける事のできるサービスを、高齢者なら誰でも利用できるようにしてほしい。横手市で運転免許の無い人が少ない事は理解しているが、これも検討していただきたい。	交通助成券交付事業は、閉じこもりによる心身機能の低下を防ぐことを目的として実施している高齢者福祉事業の一つで、福祉施策においては対象を要介護リスクが高まる75歳以上の高齢者に限定して実施しているため、対象年齢の引き下げは考えておりません。 また、運転経歴証明書の取得により受けられるサービスは、高齢運転者による交通事故の抑止を目的として、運転免許証を自主的に返納した方が外出しやすい環境をつくるために警察などが実施している取り組みであり、すべての高齢者を対象とした交通施策、福祉施策とは異なるものです。 今後も警察との連携を密にし、支援制度等の周知に努めてまいります。
---	-------	---	---

第1次横手市読書活動推進計画(素案)にお寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

1. 募集期間

令和5年12月27日(水)～令和6年1月31日(水)

2. 提出者

1名、3件

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方
1	1ページ1	市民全体の読書推進を図ることを計画の目的としているのはすばらしいと思います。大人がもっと図書館に行くようになれば、横手市はさらによいまちになるだろうなと思います。	活字離れや読書離れは、子どもに限ったことではありませんので、市民全体の読書活動の底上げを図っていくことができれば、幅広い年齢層に対する「学び」や「成長」のサポートができるのではないかと期待しております。あわせて、読書に親しむことで多くの市民の皆様読書の楽しさ、大切さを知っていただき、心を豊かにしていただければと願っております。
2	8ページ(2)、 10ページ(3)	ビブリオバトルや読み聞かせボランティア養成講座など、県で行っている事業を活用する方策はたいへん有意義であると思います。	ビブリオバトルへの参加は、読書へのきっかけづくりを図ることはもとより、中学・高校生が自ら考え、他者の意見を聞き、発表・対話することで、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上にも良い影響を与えるものと期待しております。また、各地域で活動されている読み聞かせボランティアにつきましては、読書の楽しさを子どもから大人まで市全体に広めてくれる貴重な地域の人材であると認識しており、県の事業なども活用しボランティアの拡充を図っていきたいと考えております。
3	9ページ(1)	高校生の不読者への具体的なアプローチがあればよいと思いますが、自分ではよい考えが浮かびません。	市立図書館では、Teen's(ティーンズ)コーナーを設置し、多感な時期でもある10代の皆様に読んでもらいたい本を取り揃えておりますが、不読への直接的なアプローチには至っていないのが現状です。9月14日(土)オープン予定の新公益施設Ao-naには、中学・高校生を主なターゲットとしたティーンズエリアを設置しますので、そこから市全体に波及できるような企画を模索しながら、読書活動の推進を図ってまいります。

横手市水道事業計画・経営戦略(改定素案)にお寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

1. 募集期間 令和6年1月22日(月)から令和6年2月20日(火)まで
2. 提出者 6名、7件

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方
1	P.9～10 3.2. 事業計画	行政人口及び給水人口が減少する中で新規、更新含めた設備投資を抑制する必要がある。人口減少を踏まえた水需要予測を市全体だけでなく地域ごとにも分析・予測し効率的な投資による総事業費の抑制を図る必要があるのではないかと。	今回の計画見直しにおける事業費の算定では、地域ごとの人口減少等を踏まえた水需要予測をもとに、施設統廃合や老朽管更新事業(町丁目人口予測を加味した個別計画策定予定)、周辺市町村との広域化や事業の繰り延べ等により、供給体制は維持しつつも料金値上げを抑制するため可能な限りの事業費の圧縮も含め検討しております。 なお、計画は5年ごとに見直しするものとしており、社会情勢や事業環境に著しい変化があった場合は、前倒して見直しも行い、より効率的かつ効果的な事業実施となるよう進めてまいります。
2	P.9～10 3.2. 事業計画	公共インフラとしての役割はあると思うが、各設備投資は費用対効果を見極める必要があるのではないかと。	水道法に自らの給水範囲に関しての給水義務を負う規定がある中で、当市をはじめ人口密度が低い郊外に離散している都市構造の水道事業体は、概して費用対効果が低い投資にならざるを得ない状況にあります。 計画に掲げている施設統廃合や周辺市町村との広域化、管口径の見直しなどに加え、引き続き国の費用対効果分析マニュアルに従い、事業前評価および事業再評価を適切に行い、水道事業の経営の健全化に努めてまいります。
3	P.9～10 3.2. 事業計画	資材高騰や労務人材不足の中で、事業を取り巻く環境が一段と厳しくなる中、新規に上水道を計画している地域では資材高騰により、どれくらい工事費が上がるのでしょうか。工事途中の地域では当初説明時の工事費の見直しが必要と思いますが、住民負担が増える中ですんなり応じてもらえるか心配です。	労働者人口の減少や原材料費高騰の影響による社会情勢の変化が著しく、現在施工中の地区においても工事費の増額は例外ではありません。 水道本管は市で施工しますが、給水管の取り出しは個人負担となることから、極力市民の皆様のご負担が増えないような施工方法を検討してまいります。
4	P.9～10 3.2. 事業計画	当集落は、集落営の簡易水道で飲料水等の生活用水の供給を行ってききました。 しかし、施設の老朽化や、近隣地域での水枯れの発生等により、安定的な水道の供給に不安があります。また、現在の水道施設の経年劣化が著しいこと、集落内の高齢化が進み、施設の維持管理が困難になりつつあります。最近では、簡易水道利用者の一部に濁水が出る等の事案も発生(一時的)しております。 横手市上水道への加入については、集落全員の総意をもって要望書を提出しておりますので、上水道の布設の着工について早期実施を切にお願いします。	同様の問題を背景とした複数の地区から未普及解消事業への要望書をいただいております、施工中や事業化の検討をしている地区もございます。 計画の順に上水道への加入意思に関する意向調査を行い事業化の検討をしてまいります。また、当該地区の加入率が思わしくない場合は事業化が困難になります。また、着工にあたっては一定の個人負担も必要ことから、機会を捉え貴集落の皆様へ情報提供をしてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方
5	P.14 4.2.3. 財政計画における 財源の考え方	安定的な事業経営を図るため資金残高を10億円確保とあるが適正か。 (もっと少なくても良いのではないか。)	将来の施設設備等更新需要や災害時等の対応等を考慮した際に事業運営に必要な資金残高の目安として年間給水収益の半年分から1年分の金額とされていることから、年間給水収益の60%程度、約10億円は必要なものと考えております。
6	P.16 4.3.財政シミュレーション	料金改定時期について、P.16の記述ではケース2(※3年間で3段階に分けて改定)を採用することが合理的と記載されているが、上下水道事業経営協議会や議会、そして市民(パブリックコメント)の意見を聞いた上で、判断するべきと思います。 個人的には、ケース1(※激変緩和を設けず改定)が最優先されるものと思います。そこで理解されない場合は、激変緩和措置として段階的に料金を上げるケース2になると思います。	料金改定の激変緩和措置については、改定前後の料金体系と改定差額等を市民の皆様十分に広報し、ご意見をいただいた上で最終的な方向性を決定してまいりたいと考えております。
7	P.16 4.3.財政シミュレーション	改定後料金比較ケース2(※3年間で3段階に分けて改定)の場合、3年間で毎年値上げも「また値上げか」というイメージもあり、3年間で2段階の値上げも一つの方法だと思う。	激変緩和措置設定の有無や段階数については、改定後料金体系と現料金からの改定差額等を十分に広報し市民の皆様からご意見をいただいた上で最終的な方向性を決定してまいりたいと考えております。

第4期横手市総合雪対策基本計画(素案)にお寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

1. 募集期間 令和6年2月1日(木)～令和6年3月4日(月)

2. 提出者 1名、1件

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方
1	第4期横手市総合雪対策基本計画(素案) 2、3、7、8ページ 同計画に係るアクションプログラム(実行計画) (素案) 10ページ	(雪に親しむ点について) 雪に親しむためには、まず第一にウインタースポーツの普及であると考えます。学校のスキー教室が1回で終わるところもあるようだが、ウェアなどを購入している手前、もう少したくさんスキー教室を行っていただけないともったいなく感じる。共働き世帯も多く、土日にスキーに連れていくだけでも行けない家庭が多い。スキーやスノーボードが好きで地元に残る人も多い。ぜひ学校現場でスキーに親しむ回数を増やし、豪雪地帯のメリットを感じるようにしてほしい。大変な雪おろし、疲れる雪かき、危ない雪道、少ない日照時間、夏暑くなる盆地…それでも近場でスキーができれば、地元に残る理由ができる。ぜひ、学校現場でスキーに親しませるようにしてほしい。	以前は、横手スキー場や大森スキー場、童子ヶ沢スキー場など、近隣のスキー場において、たくさんの保護者の協力をいただきながらスキー教室を実施することができておりました。現在は、スキー場が減り、天下森スキー場やジュネススキー場など、移動時間がかかる場所での実施であることや、スキー指導に協力できる保護者が減っていることから、スキー教室の実施は年々難しい状況にあります。ウインタースポーツの普及のため、ご提案者様のように積極的に関わってくださる方々のお力を借りながら、スキーに親しませる機会を増やせるよう努めてまいります。